

フードバンク + 隅田川医療相談会が一つになりました。

小さな声を集める・伝える



つぶやき

June 2021 Vol.5 [NEWS]
一般社団法人あじいる



20kg の米袋を車に積み込む仲間たちの姿



みなさま、こんにちは。新型コロナウイルスの蔓延が、世界中を「共生」の方向ではなく、「分断・分散」に陥らせようとしているのでは…と、暗い気持ちになってしまふ今日この頃ですが、今年の「あじいる」もまた、こんな時代に突き動かされて、新しい経験を重ねています。

① 「あじいる」の活動の広がり

公開研究会「地域で紡ぐいのち・仕事・くらし：隅田川地域実践に学ぶ」

長年「あじいる」の活動に参加している林加奈子さんは、日本国際理解教育学会に所属し、地域を対象とした「平和の文化づくり」についての研究を行っていらっしゃるのですが、1/24に開催された公開研究会に、「あじいる」のメンバーも参加させていただきました。林さんが「あじいる」や「あうん（東日暮里の企業組合）」を研究の対象に選び、しかも、なんと自ら「対象の中に身を置いて」研究するという、驚きの手法。林さんは「人生の早い段階から地域の中の自分というのをどう意識していくか」という課題に、教育でこれに貢献できるのではないかと考えておられます。また、共同研究者の宮野さんの「共創の視点」も新鮮でした。上から目線の「教育」ではなく、地域の中で「学び」合うことの大切さに気が付きました。

改めて「あじいる」のバックボーン、実践を見つめなおす機会をいただき、自分にとってどんなに大切な存在か、再確認できた機会でした。そして、コロナ禍で生活困窮する人の数が増えていく今後、さらに地域に根を下ろし、他の団体ともつながって成長していかなければならぬと感じました

「新型コロナ災害緊急アクション」との連携

コロナ禍で失業 / 収入減に追い込まれ生活に困窮する人々、外国人（仮放免状態の方を含む）が増える中上記の活動に、あじいるも協力団体として加わりました。

昨年末～年明けに行われた「年越し大人食堂（年末年始緊急相談会）」では、相談会場（池袋・四谷）の設営と医療相談や会場スタッフとして、反貧困ネットワーク、つくろい東京ファンド、世界の医療団などの皆さんと共に活動しました。私が医療相談会でお会いした50代の男性は「新宿駅界隈には、夜野宿する若者が本当に増えた。昼間はフラフラ歩き回っている。落ちていく自分を直視できないんだ。相談会に行く気持ちなんて起きないんじゃないかな。」と心配そうな目で教えてくれました。30代のアフリカ国籍の女性は母国の大虐殺から逃れてきた方で、まだその地獄の光景が頭から離れない、と語られました。

外国人の方々とは、その後も出会いがあり、緊急アクションが借り上げた泪橋のシェルターに入所された方々の皮膚病や胃腸炎の相談をいただきました。普段、隅田川医療相談会では、「無

料低額診療」を行っている医療機関に検査や一時的な投薬をお願いすることもありますが、だいたいは当事者の方に付き添って生活保護・医療につなぐ活動をしています。しかし、仮放仮放免中の外国人の方々は、「生活保護」も受けられず、「就労」も禁止され、当然医療保険にも加入できない状態にあります。外国人同士、あるいは地域の支援団体が「生きる」ことを精一杯支えていますが、もう支えきれなくなっています。シェルターや年越し相談会に来場された患者さんについては、都内で無料低額診療を行う医療機関につなぐことが出来ましたが、今月、北関東医療相談会主催の、主としてクルド人難民の方々を対象とした相談会に参加した時、近隣の医療機関が「無料低額診療は出来ない」状況にある（主に財政上の問題で）現状を知りました。



2年前、「あじいる」を、たった一人で訪ねてきたスリランカ人の難民 Aさん、今では「あじいる」になくてはならない存在になりましたが、彼と一緒に困難に立ち向かうたびに、わたしたちも成長させてもらっています。経済大国による無謀な開発の進むアジア諸国の情勢について考えるようになり、日本人の意識や社会の制度がいかに排他的であるかを、肌感覚で知りました。折しも、入管施設内でスリランカ人女性の尊い命が失われたことがあり、入国管理法改悪の問題があり、今こそ、これらの現状を直視して、「難民と共生する日本社会」を創っていく第一歩を踏み出すことが必要であると強く感じています。



あじいるの活動に毎月参加している Aさん



そのためには、支援団体同士が連携し、実際の支援活動や、公的な支援制度の確立に向けてのソーシャルアクションを、共に行っていくことが大切と考えます。「あじいる」もさらに模索を続けていきたいと思います。

② すべての人に医療と疾病予防を！

昨年、あじいるとして「ホームレス状態の人にも新型コロナのPCR検査を！すべての人がアクセスできる発熱外来を地域に作って！」という呼びかけを、厚労省に提出しました。しかし、実際は、ほとんどの地域で検査や治療の連携の形が作られることなく、もう2年目の春を迎えました。

ワクチン接種も遅れています。4月29日現在、私の診療所の医療関係者の誰もまだ接種を受けていません。一般診療の現場がこのような状況であるのに、医療弱者の方々のアクセスやワクチン接種は、現実にはそうとう難しんじゃない？……そう言われてしまいそうです。

それでも、声をあげなければ。「こうあるべきだ」と言い続けなければ、何も始まらない！現実論者になってあきらめたり、非難を続けるだけにはなりたくない。「あじいる」に参加し、台東区の避難所問題でみんなで交渉を重ね、改善策が導き出された経験を経て、そう思えるようになりました。

今年1月、官房長官は、野宿状態の人へのワクチン接種を「希望に応じ実施」することを検討している、と明言しました。医療だけでなく疾病予防の平等も実現されるように、求め続けていきたいと思います。





世界に猛威を振るう新型コロナウィルスは、1年たっても収束のめどは全く立っていない。日本においても3度の緊急事態宣言、後手後手に回る政府のやり方は、あきれるほどではあるけれど、この中で格差はますます増大し、不安定な非正規雇用の人々は、次々と職を失い、生活がままならなくなっている。

5月3日、5日、四谷の聖イグナチオ教会で、年末年始に引き続き“新型コロナ災害緊急アクション”などによる「大人食堂」が開催された。“あじいる”も協力団体として、机やいすの貸し出し、設営誘導、医療相談等、参加協力した。四谷の駅からイグナチオ教会に向かう道路に延々と並ぶ人々、これまで隅田川医療相談会で体験してきた中高年中心の男性たちとは全く違う人々であった。若い女性、そして外国人のなんと多いことか！これが、先進国と言われている日本の現実である。飲食店が次々と閉店に追い込まれ、そこで働く人々が職を失っている。そもそも外国人にはこれまで本当に冷たい日本の政府であったが、ここにきて何の制度も使えない外国人が、路上にたたき出されようとしているのだ。生活相談や医療相談のブースには延々と並ぶ人々の列があった。



毎月隅田川医療相談会に参加している医師の姿も。非日本語話者の相談に応じて、言葉の壁による大変さを感じたそうです。



言葉の壁を越えてみんなに声掛けする仲間たちが優しい雰囲気を作ります

今年になって、山谷地域に“反貧困ネットワーク”がシェルターを創設→開設した。ここは私たち“あじいる”的拠点からも近い。住んでいるのは、アパート転宅前の日本人や行く場のない外国人の人々だ。特に外国人には使える制度もないため、体調を崩しても医療に繋がらない。私たちは、“山友会”など山谷の他団体とも連携しながら、“反貧困ネットワーク”的このシェルターを支えていきたいと思っている。この4月から月に1度の共同の会議をもっている。この危機をそれぞれの団体が連携していくことで、何とか乗り越えていきたい。私達“あじいる”は山谷を中心とした野宿者の支援ということを出発点にしてきた。昨年、スリランカ人のAさんと出会い、外国人支援の難しさと置かれている状況の深刻さを肌で感じた。もはや“野宿のおじさんおばさんたち”的支援ではすまないので。今後ますます困難なケースに遭遇することになるだろう。だからこそ、様々な団体が連携して、知恵や経験を出し合うことが必要になる。私たちが、大事にしてきたものー支援するされるの関係ではなく、当事者自身が中心になって活動を作っていくこと、今後ますます幅広な当事者活動を目指さなければならない。こうした地道な団体間の連携や様々な立場の違う当事者間のつながりがあって初めて、この国があまりにも貧弱な公助を変えていく力になることを信じたい。



活動に参加してみて



桑原 史香

こんにちは。今年の2月からあじいるの活動に参加している桑原です。

私は、演劇などの衣装をデザインする仕事を10年程続けて来ましたが、コロナ禍において仕事が減ってしまい経済的にも、好きなことが出来なくなつたという点でも、心細さを感じていました。そんな中、身近なところでも、福祉へ繋がれなかつたという話を聞くようになり、何か出来ることはないかと調べていた時、あじいるに出会いました。

誰かの役に立ちたい！と意気込んで参加したのですが、今の所、私自身が救われています。夜回りや医療相談会では、「体の調子どう？」「助けてほしいです。」「もう無理です。」という言葉が思った以上にストレートに行き交つていて、驚きました。こんなにも躊躇なく、相手を気遣う声を掛けることや助けを求めることが出来る場に居合わせたのは、初めてかもしれません。それだけで少し自分が助けられたような気がします。

このような場を構築し維持してきたあじいるなど、いくつもの団体の存在に、心強さを感じるのと同時に公助はどうなつてゐるんだ？という思いが湧き上がつてきています。

土曜の夜に路上で出会った人を、月曜にはひとまず雨風を凌げる部屋へ繋げられた！これは活動初心者の私には物凄く大きな成果に感じられ、嬉しさを噛み締めていましたが、ふと冷静に考えると、眠る場所を得る（失う）という、一人の人にとってあまりにも大きな変化が、たまたまボランティアに出会えたかどうかで決まるのはどうなんだろうと。セーフティネットの網目、あら過ぎませんか？と思ってしまいます。

今後は目の前のことはもちろん、大きな仕組みの部分へも、目を向けて行きたいと思います。これからもどうぞよろしくお願ひします。



相談者の声を丁寧に聞き取ってくれる桑原さん



腰が曲がり、少しづつ歩くのがしんどくなってきた石やん。石やんとは冊子「あじいる」第5号の石やん。そして毎月医療相談会の時に「石やんコラム」を書いてくれる石やんのことである。姿勢が前かがみになり、今にも転んでしまいそうな歩き方をしていたため、みんなから早めに病院に行くように言われていた。しかし、なんとなく病院から遠ざかってしまい、医療相談会に来て医者や看護師さんたちと話すことはあっても、自分の体を見てもらおうとはせずにずるずると時が過ぎてしまった。

ようやく石やんが医療相談会に参加しているお医者さんのクリニックに受診すると、先生が石やんの足を見てびっくり。足は傷だらけで腫れ上がり、炎症を起こし、歩くことがしんどくなっていたのだ。月に一度は会っていた石やんの足がここまでひどくなっているとは思ってもみなかつた。このまま放置をしたら歩けなくなってしまうため、症状が治まるまで入院をすすめられ、近所の病院に入院することになった。

久しぶりに大きな病院に受診し、高血圧と糖尿病もあるため検査。医者からは「血圧は高いので薬を飲む必要がありますが、糖尿病はそこまで数値が高くないですよ」と言われ、石やんが「よかったー」と安堵する。何度も「よかったな」と。糖尿病の数値が悪くなかったのは本当に良かったが、今後の体のケアのことを考え、病院側と相談し介護保険を申請することになった。これで、何かあったときのサポート体制が整ってきた。

今回の石やんのケースだけではなく、足を清潔にすることが難しく、傷からばい菌が入り、炎症を起こしてしまい歩くことができなくなってしまう方を何人も見てきた。路上生活をしていると体を清潔に保つことが難しい。そして、体を誰かに見てもらうこと自体に抵抗感があるため、ますます症状を悪化させ、入院するレベルまで放置してしまう。しかも、状態がひどくなればなるほど病院に行ったときに色々と言われてしまう思い、さらに遠ざかってしまうのである（実際に言われてしまうことも多い）。

石やんのことがきっかけになり、月に一度の医療相談会ではフットケアに力を入れることになった。気になる方がいたら気軽に相談してもらい、爪を切ったり、足を洗って薬を塗ったりと、積極的に足の状態を診ていく。約20年間、毎月隅田公園で無料の相談会を続けてきたからこそ、当事者との信頼関係がある。医療機関では相談できないことも、隅田川医療相談会では相談できる。本人の意思を尊重しながら、必要があれば福祉事務所や医療機関につなげる。これからも、この地道な月に一度の相談会を大切に続けていく。



爪切り実施中！

あじいるの通信が ネットで読めるようになりました！



鈴木 香織

フードバンクと隅田川医療相談会が統合して「一般社団法人あじいる」になり、二年が過ぎようとしています。そう、統合を機に情報発信にも力を入れようと、しているうちに二年も経ってしまいました。この間にも取り組むべき課題は増えるばかり。昨年は台風19号襲来時の避難所から路上生活者が排除され、台東区に抗議したり改善を求めたり。コロナ禍における生活困窮者向けの支援活動は今も続いている。

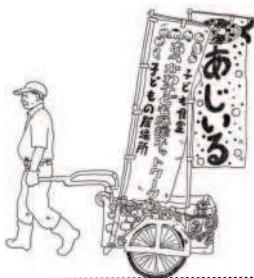
そんな私たちの活動は、支援の呼びかけに応えてくださる皆さんのお力添えがあってこそです。あじいるも少しづつですがネットを使うようになり、ご支援の広がりの速さ、大きさを実感しています。ウェブサイトも調い、皆様のご利用をお待ちしています。



ホームページはこんな感じです！

一般社団法人あじいる ホームページ ご利用案内

<https://agile.or.jp>



- ・ネットで寄付ができます（クレジット決済のみ）
- ・冊子『あじいる』が購入できます
- ・通信『つぶやき』が読めます

『つぶやき』の郵送を停止してネットへの切り替えをご希望の場合は、上記サイトからご登録いただけます。サイトを開いたら、「お知らせ」→「ニュースレター最新号の通知をご希望の方へ」と進んでください。

隅田川医療相談会活動報告 2020年10月～2021年3月

池上 哉美

● 夜まわり・・・・浅草：延べ174名 | 上野：延べ463名

医療相談会の前日に、浅草・上野の2カ所を回る。路上で寝ている方たちに、毛布と相談会開催のお知らせのチラシを配りながら、声をかけて回る。

● 医療相談会（毎月 第3日曜日に隅田公園山谷堀広場にて開催）

【医療相談】 医師や看護師による健康の相談。血圧などの簡易的な検査も実施。

延べ31名（男性28名、女性3名）

年齢別 | 30代：0名 40代：3名 50代：8名 60代：13名

70代：5名 80代：2名

紹介状 | 計11件

【薬の相談】 上記の相談に基づき、内容によっては市販薬3日分配布。医療従事者が担当。

配布：延べ284名

【鍼灸】 体の不調をききとり、鍼灸師が施術を行う。

施術延べ33名

【散髪】 会話を心がけながら、髪の毛をバリカンで刈る。

延べ95名

【生活相談】 生活に関わる様々な問題や、生活保護申請・受給後の相談を受けている。

延べ15名

【アパート相談】 生活保護受給後のアパート転居等、住まいに関する様々な相談を受けている。

延べ2名

【法律相談】 債務整理その他、法律の相談を受けている。法律家が担当。

延べ1名

【炊事】 仲間のご飯をみんなでつくる！

平均105食 / 月

● フォロー活動・・・・延べ14名

相談に来られた方たちの中で、生活保護の利用を希望する方や継続的な治療が必要な方の医療機関・福祉事務所への同行を行う。入院した方のお見舞いや、継続的な相談の対応も行う。

お米の配送状況（2020年10月～2021年3月）



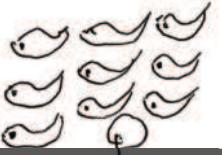
池上 哉美

お米の配送状況	(2020年10月～2021年3月)						単位:Kg
登録団体名(受け渡し先)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
あじいる(医療相談会)	5			3			8
アゼリア		5					5
足立インターナショナル・アカデミー		5	10	10			25
足立野宿者支援の会さくら	10	30		30	10	30	110
アディアベバ・エチオピア協会	75	75	50	250			450
荒川区社会福祉協議会		250			250		500
えん		5			5		10
大田幸陽会	15	15	15	20	15	15	95
カトリック東京国際センター	140	130	120	120	150	150	810
かわさきキャンブース・アディクション	40		40	60	60	60	260
北関東医療相談会	200	250		200	200	210	1,060
子どもの居場所イン町屋		10	10		10	10	40
サークルドア	110	100	45	70	80	90	495
山谷夜廻りの会						40	40
女性ネットSaya-Saya	50	50	30		20	20	170
タヴェルナ～小さな食堂～			10	10		10	30
難民支援協会	30	30	40	20	40	20	180
西尾久七丁目本町会			15				15
ハーフタイム				5	5	10	20
バイタルプロジェクト						30	30
東日暮里子ども食堂	10					20	30
ホームとらむ	10	10	10	10	10	10	60
ホームトリノス		10					10
ほしのいえ	40						40
ぼたらか	20	20			20	20	80
ほっこりアイランド			20			20	40
BONDプロジェクト			5	10		10	25
末日聖徒イエスキリスト教会	30	30	20	30			110
みのわマック	100	80	100	100	80	100	560
みやまえの家		40			40	40	120
友愛会	80	120	120	160	140	80	700
合 計	965	1,265	660	1,108	1,135	995	6,128

お米のカンパ受取 & 購入状況（2020年10月～2021年3月）

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1,306 kg	1,230 kg	1,064 kg	1,004 kg	1,114 kg	666 kg	6,383 kg

2020 年度会計報告



荒川 茂子

収入	支出
寄付金 4,029,172	緊急お米プロジェクト 運賃 643,190
年会費 422,000	冊子あじいる 経費 36,230
カリタスジャパン助成金 1400000	電気代 65,999
アトミジャパン助成金 200,000	家賃 1,320,000
毎日新聞社助成金 300,000	車両・事務所共同利用分担金 240,000
冊子あじいる売上 312,590	配送・運搬 43,102
あうんからの委託費 25,930	作業日経費 95,338
原稿料・講師料 25,500	事務消耗品 111,562
受取利息 40	ボランティア保険料 5,400
	米 仕入代 1,714,766
	医療相談会 炊き出し経費 225,707
	医療相談会 交通費 55,330
	医療相談会 薬代等 186,729
	ホームページ作成 1,040,000
	雑費 41,977
	消耗品 50,697
	FAX電話機 24,124
	通信費 153,446
	生活支援金 128,910
	旅費交通費 31,431
	印紙代 1,250
収入合計 6,715,232	支出合計 6,215,188
前年度繰越金 6,868,137	次年度繰越金 7,368,181
13,583,369	13,583,369

2020 年度は、新型コロナウィルスの猛威の中、全てのイベントが中止になりました。イベントのための支出はなかったのですが、緊急お米プロジェクトとして、全国にお米の支援をし、寄付のお米だけでは足りず、100 万円以上のお米の仕入れがありました。寄付金の方は、皆様のおかげで、昨年（227 万円）を大きく上回る金額が集まったことに感謝します。まだまだ収束は遠いコロナの中で、困窮する人々はますます増え続けることが懸念されます。皆様の一層のご支援をよろしくお願ひいたします。

お米のカンパをお願いいたします！



4月29日は、いつも田んぼを貸してくださっている群馬県板倉町の小林信哉さんにお願いをして約900キロの米の引き取りに行きました。現在、必要とされる米の量が増え、寄付だけでは不足しているため、皆さまからのカンパでお米を購入しています。

今年度はコロナ禍で皆で集まっての種蒔き・田植えは中止となりましたが、引き続き田んぼもお借りしています。この日も、少しだけですが田植え前の準備をお手伝いしたり、採れたて野菜をお土産にもらいました。またみんなで米作りができる日がきますように。そして、引き続きお米のカンパをどうぞよろしくお願ひいたします！



表紙の写真は、4月29日にお米を引き取りに行ってくれた仲間たちの姿です。



田植え準備のお手伝い中



ボランティア参加もお待ちしています！

- 作業日：毎月第1土曜日。米などの援助物資やニュースレターの発送・配送を行います
- 医療相談会：第3日曜日。前日の土曜に夜回り、翌日月曜にフォロー活動を行います
- 資源回収：毎週木曜日。

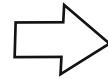
※ 初めて参加される場合には aji_iru@yahoo.co.jp 宛に事前にご連絡ください

カンパのお願い

一般社団法人あじいるの活動にご理解・ご支援いただきありがとうございます。引き続きカンパ・ボランティアをしてくださる方を募集しています。

● お米

- 3年以内のもの
- 玄米・白米ともに大丈夫です
- 外国のお米（長粒米）はご遠慮ください
- 大口（100kg以上）の場合は事前にご連絡ください

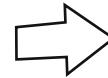


お送りいただく際のお願い

お送りいただく際の送料は
ご負担いただいております。
ご了承ください。

● 食品

- 賞味期限が2ヶ月以上残っているもの
- 日持ちするもの
(レトルト食品・缶詰・調味料・乾麺・非常用食品など)



X 受け取ることができません！

- X 賞味期限が2ヶ月残っていないもの X 開封後の食品 X 生鮮食品
X 商品説明が外国語のみのもの

● 必要物資

寝袋、毛布、カイロ、新品の日用品（靴下・男性用下着・タオル・カミソリ・歯ブラシ・石けん）、テレfononカード（携帯電話を持たない方の連絡用）、未使用切手、湿布薬、小型ラジオ

● 賛助会費

一口：3000円（年間）現金カンパも隨時受付中

お米や食品を備蓄する低温冷蔵庫の維持費、食品や物資運搬用の車輌費・燃料費、医薬品や備品に必要な経費、共同炊事の経費、医療機関や福祉事務所への交通費、出版物の印刷費、事務所の維持費などに使わせていただきます

【振込先】

- 銀行振込
ゆうちょ銀行 ○一九店
口座名義：一般社団法人あじいる
当座預金：0673914

- 郵便振替
口座番号：00110-0-673914
口座名義：一般社団法人あじいる

● ボランティア

生活や健康状態の相談会、夜間パトロール、登録団体への食料の配達作業、イベントへの出店など、たくさんの人の手が必要です。社会人だけでなく、学生など、どなたでも参加いただけます。初めて参加される場合には、事前にご連絡ください。

【送付・問合わせ先】

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里 1-36-10 あうん気付 一般社団法人あじいる

TEL : 03-5850-4863

FAX : 03-5850-4864

Email: aji_iru@yahoo.co.jp

ホームページ

<https://agile.or.jp>

